

ほーほーどり

我孫子野鳥を守る会

No. 183

2005年

3～4月号

手賀沼の水鳥の収容力は崩壊した

飯泉 仁

当会は手賀沼の鳥 を発刊し、水鳥の個体数は減少傾向を続けていることを報告しました。その後 2004 年 12 月までの調査結果が終了し、さらに減少傾向が進んだ結果となりました。深刻な状況について報告します。

1. 1977年から 2004年の間の 28 年間の水鳥個体数調査の結果が示すもの

(1) 手賀沼の鳥 で報告した水鳥の年総個体数

手賀沼の鳥 (2004) で水鳥全体の個体数について「1977 年から 2002 年の間の 26 年間の年総個体数の合計は 308,266 羽で、最も多く観察された年は 1977 年の 16,999 羽、最も少なかった年は 1988 年の 7,130 羽だった。年総個体数推移の傾向としては、1977 年から 1988 年にかけて減少した後、1992 年にかけて持ち直した感があったが、2002 年にかけて減少した。2002 年の年総個体数は 8,499 羽で 1977 年時点に比べ半減している。1977 年から 2002 年の間の 26 年間の年総個体数の平均は、11,856.4 羽」と報告しました。

(2) 2004 年の結果を含めた水鳥年総個体数

手賀沼の鳥 の刊行後、2004 年 12 月までの個体数調査の結果を前記同様に整理してみると、1977 年から 2004 年の間の 28 年間の年総個体数の合計は 321,402 羽で、最も多く観察され年は 1977 年の 16999 羽であることは変わらないものの、最も少なかったのは 2004 年の 5799 羽でした。また、1977 年から 2004 年の 28 年間の年総個体数の平均は、11479 羽であり、2002 年までの年総個体数の平均に比べて一層水鳥の個体数の減少傾向に拍車がかかっている結果となっています。2004 年の年総個体数の合計 5799 羽は、最も多かった 1977 年の 34.1% という結果であり、もはや手賀沼が水鳥の収容力は大きく崩壊している結果となっています。

科別の個体数の変化

科別に年総個体数の合計の推移に着目してみると、最も減少したのが、カモ科です。

手賀沼の鳥 (2004) で 1977 年から 2002 年の間の 26 年間では、2002 年の 4991 羽が最も少なく、最も個体数が多かった 1992 年に比較して 37% にまで減少したことを報告しましたが、2004 年は 3147 羽とさらに減少し、1992 年に比べて 23.4% のレベルでした。

種別の個体数の変化

2002 年以降、年総個体数の合計が減少した種類は、マガモ・カルガモ・コガモ・オカヨシガモ・オナガガモ・ホシハジロ・ミコアイサでした。

この中で、2002 年以降特に減少傾向が目立つのは、マガモ・コガモ・オカヨシガモ・オナガガモ・ミコアイサの計 5 種です。

2. 目を覆う水鳥の減少

NIRA(National Institute for Research Advancement) (1988) は、手賀沼の流域と鳥類相などについて調査・整理したものを報告しています。その中で手賀沼では、1973年の沈水植物に続いて1978年浮葉植物までに計28種類もの手賀沼の植物相が絶滅し、水岸の3種余りの植物を残すのみとなり、手賀沼の水面下は砂漠化したことを報告しています。また、手賀沼の水中植物に依存してきた潜水して餌をとるカモ科の鳥類と水面で餌をつまみとるカモ科の鳥類の個体数は大崩壊したとし、その後沼で生息していたカモ科の鳥類は、沼の水質の動向に影響を受けない種類であることを指摘しています。また、かろうじて手賀沼で生息している水鳥の将来の生息を保障するものは、水質の回復と水岸部のヨシ原の保全と静寂と報告しています。

しかしながら、1990年以降では手賀沼の水鳥の個体数は減少傾向を続け、特に2004年では過去で最も個体数が減少した年となりました。減少を続けている水鳥の中でもカモ科の鳥類の減少は目を覆うばかりの状況であり、2002年以降の結果を見てみると、NIRA(1988)が沼の水質の動向に影響を受けないと報告しているマガモ・コガモ・オカヨシガモ・オナガガモが減少しています。この結果は、沼の安全性や沼外の餌場が失われていることを物語っていますし、なによりも水岸部の静寂さが失われてきていることを物語っています。

3. 手賀沼の水鳥の収容力は崩壊した

手賀沼の水面下での植物相が絶滅していること、手賀沼の水中植物を餌とするカモ、水面で餌をつまみとるカモが1970年以前に崩壊していることはNIRA(1988)が報告している通りです。これらの種類については、水中植物の再生がなされない限り復活は不能です。これに加えて、沼の水質に左右されないカモ科の鳥類の収容力を失った状態が2004年の手賀沼の姿です。もはや、手賀沼の水鳥の収容力は崩壊したと言える状態に達しています。今後も沼周辺の静寂と安全性が脅かされる条件が除去されない限り、水鳥の個体数はさらに減少していくことは必至です。

以上

北新田にコウノトリ

中野久夫

コウノトリ

日課にしている北新田の観察をはじめて6年半、1年半前からは近くの金成典知さんと一緒に歩くようになった。

暮もおしせまった12月25日(土)朝7時頃、いつものように北新田を利根川に向かって歩いて行くと、金成さんが「あれは何でしょうか」と声をかけてきた。左前方の田んぼに白と黒の大きな鳥が見える。双眼鏡で見ると、嘴は黒で太くて長く、大きな獲物を咥えている。足はピンクで長く、どうもコウノトリのようである。ビックリして図鑑で調べたが間違いのないようだ。証拠写真をとカメラを向け2・3枚撮る

と、隣の落とし堀におりて見えなくなった。

いくら待っても姿が見えないので恐る恐る近づいてゆくと、堀で大きなウシガエルを盛んにつつき飲み込もうとしていた。30分ばかり悪戦苦闘していたがついには飲み込めず、あきらめて他の餌を探し始めた。

このコウノトリはあまり人を警戒せず、近くで見ても平気で、泥水に嘴を突っ込み振りながら餌探しをして、モソゴやドジョウ・ザリガニなどを数匹捉えて食べた。どうもコウノトリは触覚で獲物を見つけるようである。

1時間ばかりみていたが当分他に行きそうもないので、金成さんに家に帰っていただき、近くの西巻さんと岡本信夫さんに連絡し現地に来てもらった。4人で相談して鳥博の時田学芸員に連絡し、コウノトリで間違いのないことの確認とその後の処置をお願いした。

時田学芸員は、早速鳥博の斉藤学芸員を呼んで写真を撮り、コウノトリ飛来の情報を柏の記者クラブに流した。あいにく土曜日で、たまたま連絡のついた読売新聞が、翌日の1面を飾る特大ダネとして「コウノトリ幸せの舞」と大きく報道した。

幸のトリ

コウノトリは幸せを呼ぶとされ、市内の山階鳥類研究所で非常勤研究員を努めておられる紀宮様のご婚約のお祝いにきたのではと読売新聞で紹介されたため、多くのマスコミの注目を浴び、ご婚約に関連付けて広く報道された。おかげで、我孫子市や鳥の博物館にとっても幸のトリとなり、知名度向上に大いに役立ったようだ。

今年は酉年、近くの市川市ではアカハジロ、市内の江蔵地ではホオジロガモが見られるなど、いろいろな珍鳥が見られそうで、コウノトリがお祝いにきてくれたおかげではというわさも。

コウノトリにあと押しされて急遽高価な望遠レンズ買うふんざりつけた人、望遠鏡をかうお許しが奥さんから出た人の話なども聞かれ、コウノトリは多くの人に幸を運んできたようだ。

また、カメラや双眼鏡を持って北新田をウォーキングする人もふえ、カメラ・望遠鏡メーカーにとっても幸のトリになったようだ。

後のトリ

コウノトリのおかげで各地からバーダーが集まり、早朝から夕方暗くなるまで多くの目で北新田を観察してくれたおかげで、コウノトリ以外のめずらしい鳥もいろいろ見つかった。

北新田ではノスリやチュウヒ、チョウゲンボウなどはよく見られているが、さらにハイロチュウヒの、ケアシノスリ、コミミズクも観察され、猛禽類探しに北新田に来る人もよく見掛るようになった。他県のバーダーが時田学芸員に、「田んぼから猛禽類がわくように出てくる、北新田はすばらしい」と絶賛したそうである。

また、コウノトリの調査中にシベリヤジュリンが見つかったり、対岸の取手市戸頭の利根川堤防で越冬ムナグロ7羽が見つかったりした。

コウノトリが北新田にきて35日になる。最近では餌が少なくなったのか行動範囲が広くなり、周辺に飛んでゆき行方不明になる日も多くなった。広い北新田でも、今の環境では餌を十分とれないようである。これから手賀沼周辺に、ハクチョウやガンなどの大型の鳥を餌付けなしで呼び戻すためには、餌が十分取れるような環境を如何に整備するかが最大の課題である。



コウノトリとアオサギ (写真 中野久夫)
(1月30日記)

渡良瀬遊水地及び足尾銅山緑化再生事業視察会に参加して

木村 稔

2004年11月26~27日、美しい手賀沼を愛する市民の連合会(美手連)の研修視察会(渡良瀬遊水地及び足尾銅山緑化再生事業)に参加した。11団体15名が参加した。

まず、利根川資料館(国土交通省関東地方整備局・利根上流河川事務所)に寄り利根川の治水、利水、環境の歴史と現状を写真、パノラマ、古文書など沢山の資料から概観を学ぶ。具体的には、利根川の洪水対策、埼玉平野の開発、舟運による東北地方との経済交流、江戸を守る役割などのための東遷事業(利根川の流れを東に変える)の歴史を知ることだった。我孫子は幾度も利根川の洪水に悩ま

された地域であり、河川敷は運動場や公園として利用していることもあり、参観者の関心も高かった。

午後、渡良瀬遊水地に入り、「渡良瀬遊水地を守る利根川流域住民協議会」の方々に案内していただいた。渡良瀬遊水地は、栃木・群馬・茨城・埼玉の4県にまたがる広さ 33km²の日本最大の遊水地である。渡良瀬川上流にある足尾銅山から流出する鉱毒を沈殿させ、鉱毒事件を沈静化させるために明治政府が、谷中村を廃村にして造った。現在は日本一のヨシ原、鉞路湿原に次ぐ湿原となっている。植物は約 1000 種、昆虫は 1600 種を越え、野鳥は約 230 種が記録されている。哺乳動物、淡水魚も多い。問題点は、遊水地の乾燥化が進み、ヨシ原が保全できるかどうかであり、会では遊水地全体を野外博物館にする「渡良瀬遊水地エコミュージアム・プラン」を提案している（以上協議会の資料による）。利水対策による第一貯水池（洪水調節容量 1000 万立法メートル）は全面がコンクリート護岸であるのに対する批判が強い、水位が大きく変動するため植生が打撃を受けヨシはほとんど消滅した。また水質も悪化している。そのため、今は治水に不要であり、遊水地の自然を破壊する渡良瀬第二貯水池の建設に反対しているという。バードウォッチャーにとっては冬季、ワシ、タカの多いことで親しまれている。当日も 5 種のタカとキツネも見ることが出来た。

桐生で宿泊。よく朝、宿に程近い、関東ローム層からはじめて遺跡が発掘されて有名な岩宿遺跡を見学。観光で高津戸溪谷、草木ダム湖（オシドリを見る）を経て足尾銅山緑化事業を見学する。江戸時代から始まり、明治時代日本の近代化の一翼を担った足尾銅山事業だが鉱毒の傷跡は今も残っていて周辺の山も煙害により禿山が多い。足尾銅山事業の歴史、渡良瀬川の鉱毒問題と田中正造の運動を環境学習センターで学び緑化事業現場に向かう。禿山に植生を回復させる緑化再生事業は環境を学ぶ体験学習の場となっていて多くの小・中学生が訪れて植林を行っている。我孫子市や周辺地域の学校の名前も表示されていた。かつて被害に遭った渡良瀬の人たちが緑化事業に積極的に参加しているのを知り興味深く思った。足尾町の人々は過去の歴史を踏まえ新しい街造りを考えているということだった。連合会のメンバーは、みな知識人で同行して飽きることがありません。皆さんに、一度、研修会に参加されることをお勧めします。

ツルの里

松田幸保

11月に妻の希望に従って萩・津和野を旅行しました。レンタカーで回るコースと温泉宿を検討している時、地図上に「呼鶴温泉」という名称が目に入りました。そういえば、山口県にも冬場に「ツル」が細々と来る所があったなと思い、宿に電話したら車で 15 分位だということで一泊目をそこに決めた。当日は架け替えられた錦帯橋と台風の爪痕が残る巖島神社を見て宿に着いた、山の中かと思っていたら平地の一軒宿なので猪を食べさせられる事は無いなど安心する。意外に食事は良く果物がボールにいっぱい出たのにはびっくりした、食べきれないので翌日のおやつにもなった。

二日目は早朝からツルの里を訪れる事になったが八代といってちょうど津和野への途中にある、数が少ないのとナベツルだけなので人気はいまいちのようだ。現地に着くと看板に『たたいま 10 羽』とあり車の中からも 6 羽が見える、観察舎に向い車を進めると道路の反対側にツルの群れが居る、降りて数えると 13 羽だ、表示とずいぶん差があるなと思いながらカメラを構えると何か変だ、「デコイ」だった。6月の「北海道鳥見撮り」でエトピリカのデコイにやられていたので、「うわっまたか」という感じだった、あらためて本物を良く見ようと観察舎に入ったが次第に遠くに行くところだった、明治の乱獲で数が減り、その後保護してから増えピークは昭和 15 年だったそうだ、戦争でツルどころではなくなったのかも！

小雨も降ってきたので早々に津和野に向かうことになる、途中道の真ん中に遠くからもそれと分か

る「冬毛のテン」の死体があった、尻尾を持ってみると口から血が出ている程度でそれほど損傷は無い、意外と重量感がある、日帰りなら持って帰るんだがと思いながらこれ以上轢かれないように草むらに置いて旅を続けた。

行 事 案 内

松戸乗換え、武蔵野線を利用します。
持 物 観察用具、飲物・昼食(途中で購入可)
申 込 申込の必要はありません
担 当 島崎、小玉

3月手賀沼探鳥会とカウント

期 日 3月13日(日) 雨天中止
集 合 我孫子市役所 午前9時
案 内 カモ類の北への旅立ちが始まり、早い夏鳥がやってくる季節です。沼だけでなく、周りの田畑も注意して観察しましょう。
解 散 正午
担 当 中野、染谷、飯島、北原

4月手賀沼探鳥会とカウント

期 日 4月10日(日) 雨天中止
集 合 我孫子市役所 午前9時
案 内 カモ達は本当に少なくなりました。でも春の渡りの季節です。シギ・チドリとの出会いが楽しみです。
解 散 正午
担 当 染谷、飯島、北原、中野

葛西臨海公園探鳥会

期 日 3月27日(日) 雨天中止
集 合 我孫子駅改札口 午前9時
案 内 東京湾のカモやカイツブリ類はまだ見られるか? この公園も樹木が育ち、渡りの時期には珍鳥が来ることで知られるようになりました。広い園内をゆっくり回りしたいと思います。各停で新

秋ヶ瀬公園探鳥会

期 日 4月24日(日) 雨天中止
集 合 我孫子駅北口広場 午前8時
交 通 乗用車分乗。同乗者は運転者に1,500円(含高速代)を支払いください。
案 内 荒川沿いのさいたま市秋ヶ瀬公園で渡りの途中の小鳥達との出会いを楽しみます。オオルリやキビタキに出会えるかも。
解 散 我孫子駅北口 午後5時
持 物 観察用具、雨具、弁当(途中で購入可)
申 込 諏訪まで。車を提供いただける方はその旨も。
Tel/Fax 04-7188-7137

担 当 諏訪、田中

筑波山探鳥会

期 日 5月1日(日) 雨天中止
集 合 我孫子駅北口広場 午前7時
交 通 今井観光マイクロバス(33人乗り)
案 内 恒例のゴールデンウィーク探鳥会です。本隊(健脚向き)は筑波山の裏側から探鳥をしながら御幸ヶ原に登り、別隊(一般向き)は筑波山神社での探鳥後、表側からケーブルカーを利用し御幸ヶ原で本隊と合流します。その後、男体山を周遊する自然研究路を一周し裏側から

下山します。ソウシチョウ、オオルリ、ツツドリの美声と姿に出会えます。

解散 我孫子駅北口広場 午後 5時
持物 観察用具、雨具、昼食(駅前のコンビニで購入可)
費用 2,500 円(バス代等)集合時に徴収します。ケーブルカー利用の方は別途：大人 570 円、子供 290 円(片道)が必要です。
申込 猪爪まで
Tel/Fax 04 - 7186 - 5075
担当 猪爪、染谷

幹 事 会

日時 3月13日(日) 午後1時30分～
場所 水の館 研修室
議題 総会提出資料の検討
・16年度活動報告及び決算案
・17年度事業計画及び予算案
会報184号掲載記事について
その他(議題を提出する場合は事務局にご連絡下さい) 事務局

平成17年度定期総会

日時 4月10日(日) 午後1時30分～
場所 水の館 研修室(3F)
議題 (1) H16年度活動報告、同決算報告
(2) H17年度事業計画案、同予算案
(3) 役員改選
(4) その他

16年度の成果と反省を総括し、17年度の活動方針等を決める総会です。また本年は役員改選の年でもあります。できるだけ多数会員のご出席をお願いします。

事務局



野口幸子

行 事 報 告

12月手賀沼探鳥会とカウント

調査日時 2004年12月12日 9:15～12:00
曇り時々雨・風弱 気温7

<認めた鳥> カイツブリ、ハジロカイツブリ、カンムリカイツブリ、カワウ、ダイサギ、コサギ、アオサギ、コバクチョウ、マガモ、カルガモ、コガモ、オカヨシガモ、ヒドリガモ、ハシビロガモ、ホシハジロ、ミコアイサ、ミサゴ、オオタカ、チョウゲンボウ、キジ、クイナ、バン、オオバン、ケリ、タゲリ、イソシギ、ユリカモメ、セグロカモメ、キジバト、カワセミ、ヒバリ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、タヒバリ、ヒヨドリ、モズ、ツグミ、ジョウビタキ、メジロ、ホオジロ、カシラダカ、アオジ、クロジ、オオジュリン、カワラヒワ、スズメ、ムクドリ、ハシボソガラス、ハシブトガラス
計49種

<探鳥班> 佐々木隆、桑森 亮、間野吉幸、猪爪敏夫、北原建郎、諏訪哲夫、大久保陸夫、谷山晴男、川田光男、染谷迪夫、幸田行生、西巻 実、中野久夫、信澤正一、小口勝久、吉田隆行、中森純也、田丸喜昭、常磐孝義、小池忠彦、谷沢幸次、島崎純造、榎本 右、田中 功、鈴木静治、小玉文夫、首藤佑吉、山本貞江、小林寿美子、玉井修一郎、宮下三禮、橋本 清、野口隆也、野口紀子、野口紀恵、植田啓介、木村 稔、飯島 博 参加者38名

<カウント班> 飯泉 仁、飯泉久美子
調査日時 2004年12月13日 14:00～16:00
晴れ、気温15 (今月は探鳥班とカウント班の調査日時が異なります)

調査種	上沼	下沼	合計
カイツブリ		4	4
ハジロカイツブリ		1	1
カンムリカイツブリ	3	5	8
カワウ	12	106	118
ダイサギ	2	10	12

コヱ	3	15	18
アヱ	10	8	18
コブハクチョ		5	5
マガモ		127	127
カルガモ	90	70	160
コガモ		213	213
オナガガモ		15	15
ミコアイサ	1	20	21
オバン		5	5
タゲリ		14	14
ユリカモメ	10	108	118
セグロカモメ	1	2	3
水鳥計	132	728	860

1月手賀沼探鳥会とカウント

調査日時 2005年1月9日 9:30~12:10

晴れ・風弱 気温2

<認めた鳥> カイツブリ、ハジロカイツブリ、カンムリカイツブリ、カワウ、ダイサギ、コサギ、アオサギ、コブハクチョウ、オオハクチョウ、マガモ、カルガモ、コガモ、オカヨシガモ、ヒドリガモ、オナガガモ、キンクロハジロ、ミコアイサ、ミサゴ、ノスリ、ハヤブサ、チョウゲンボウ、オオバン、タゲリ、セイタカシギ、ユリカモメ、セグロカモメ、キジバト、カワセミ、ハクセキレイ、タヒバリ、ヒヨドリ、モズ、ツグミ、ウグイス、セッカ、シジュウカラ、メジロ、ホオジロ、カシラダカ、アオジ、クロジ、オオジュリン、カワラヒワ、シメ、スズメ、ムクドリ、ハシボソガラス、ハシブトガラス
計48種

<探鳥班> 佐々木隆、武藤康之、柴本三弘、柴本法子、宮下三禮、諏訪哲夫、清岡万紀子、小林秀美、小口勝久、小池忠彦、西巻 実、榎本 右、北原建郎、桑森 亮、中野久夫、村瀬和則、谷沢幸次、吉田隆行、常磐考義、野口隆也、山本貞江、木村 稔、谷山晴男、川田光男、橋本 清、植田啓介、間野吉幸、八木よし子、中尾葉子、大久保陸夫、島崎純造、田中 功、猪爪敏夫、坂巻宗男、宮崎 健、野口紀子、野口紀恵、飯島 博 参加者40名

<カウント班> 飯泉 仁、飯泉久美子

調査種	上沼	下沼	合計
カイツブリ	8	5	13
ハジロカイツブリ		10	10
カンムリカイツブリ	7	11	18
カワウ	18	52	70
ダイサギ	1	5	6
コヱ	4	7	11
アヱ	2	5	7
コブハクチョ	1	11	12
オオハクチョウ		4	4
マガモ		54	54
カルガモ	103	152	255
コガモ	130	312	442
オナガガモ	6	1	7
ヒドリガモ		8	8
オナガガモ	2	208	210
キンクロハジロ		8	8
キンクロハジロ		1	1
ミコアイサ	1	8	9
バン	1	1	2
オバン	3	45	48
タゲリ		4	4
セイタカシギ		1	1
ユリカモメ	16	74	90
セグロカモメ	2	1	3
水鳥計	305	988	1,293

芋 煮 会

染谷迪夫

実施日 2004年12月19日

今年は芋煮会のスタイルが変わりました。今までは探鳥班と芋煮班に分かれていましたが、今年は参加者全員が芋煮班です。全員で準備し、料理し、食べて、後片付けと、芋煮会を楽しもうと言う事になりました。芋煮会の料理内容も芋煮、鉄板焼き、イワシ、やきとり、やきいも、他に参加者の手作り料理、アルコール類（ビール、ワイン、日本酒、ウイスキー、焼酎）と豊富です。料理の種類や下準備を奉行制にして、それぞれを担当奉行と協力者で進めていきまし

た。芋煮会を実施するにあたって、どれだけの作業内容があるのか参考までにお話しますと以下のように、この作業に全員が参加しました。

先ず芋煮会の準備。

会場予約。芋煮釜、運搬トラックの手配。芋煮会の材料調達と下準備（芋煮材料、イワシの買出し、やきとり材料や鉄板焼きの材料、アルコール類の手配）、他に薪や炭状況の調査と手配、申し込みの受付、参加人員の予測と関係者への連絡など。芋煮会の材料以外の必需品（お皿、カミコップ、料理用道具、調味料その他諸々）の手配など。

当日になりますと次のようになります。

薪の調達と補充、炭の確保、火の管理、芋煮料理作り、イワシ焼き、やきとり作り、鉄板焼き作り、後片付け、火の後始末、ゴミの処理（燃やしたり、持ち帰ったり）、会費徴収、立替分の精算、会計報告、写真撮影など。

これを奉行制にすると

総奉行、焚き火奉行、芋煮奉行、いわし奉行、やきとり奉行、鉄板焼き奉行、勘定奉行、諸物調達奉行、写真奉行、後始末奉行の10奉行とお手伝いの役人となるわけです。

各奉行は幹事会で決定されました。

これで今回の芋煮会は全員参加型になり、「私準備する人、作る人、食べる人、片付ける人」で一人4役をこなし、参加したことへの充実感となったことと思います。

平成16年の芋煮会は新しい芋煮会の始まりでした。最後に今年の芋煮会は22回目にあたるのですが、これまで1回も中止にならず晴天が続いたそうです。これも参加された皆さんの日頃の精進のたまものではないでしょうか。又来年も楽しい芋煮会ができますように！

<参加者> 赤尾 完、飯島 博、猪爪敏夫、飯泉 仁、飯泉久美子、大野真澄、大久保陸夫、北原建郎、木村稔、桑森 亮、小玉文夫、小玉信子、小林秀美、小島経一、小林寿美子、柴田五郎、首藤佑吉、島崎純造、志賀鉄雄、鈴木清治、諏訪哲夫、染谷迪夫、田中 功、谷山晴男、戸塚 道、常盤孝義、常盤保子、戸谷輝夫、中野久夫、中尾葉子、中尾正直、西巻 実、野口隆也、野口洋子、野口鉄蔵、野口紀子、野口紀恵、橋本 清、間野吉幸、松田幸保、宮下三禮、

谷沢幸次、谷沢豊子、佐々木隆、坂巻宗男、柴本三弘、柴本法子、木村正子、金成典知、杉本文夫、一番が頼国彦 参加者 51名

酒 沼 探 鳥 会

静けさの雰囲気を持つ酒沼

小林 寿美子

実施日 2004年12月30日(有志探鳥会)

前日の夕方からかなりの雪。気をもみながら天気予報とにらめっこ。照る照る坊主のかいあって当日は快晴、我孫子駅に向かう。みんなもう集合している。気合の入れ方が違うのでしょうか反省。8時前に北口を車6台に分乗し出発。雪をかぶった筑波山、雪景色の田畑を見ながら車中は、北新田のコウノトリの話から紀宮さまの話に盛沢山。

10時過ぎ酒沼西端に到着。手賀沼とはまた違った静けさの雰囲気を持つ酒沼を早速探鳥。ミミカイツブリ、ハジロカイツブリ、カンムリカイツブリ、公園にはビンズイ、アカハラが。出だし好調。いこいの村に移動後もミコアイサ、キンクロハジロ、スズガモの群れ、アオジ、カシラダカがすぐ近くに昼食後は養護施設付近を探鳥し、帰りに特産の蜆を買う。大粒で、すごく美味しかった。

本日最後の目的地高浜駅近くの霞が浦 1000羽近い鴨の群れ。こんなにたくさんの群れを見るのははじめてでした。通りがかりの地元の方によると今年は、去年の今頃よりも少ないとのこと。環境の変化が影響しているのでしょうか。車に乗り込む寸前ミサゴが私たちの上空を今年最後の探鳥をしめてくれました。

雪道の道路事情の悪い中、ドライバーの方たちは大変だったと思います。安全運転ありがとうございました。

<認めた鳥> カイツブリ、ハジロカイツブリ、ミミカイツブリ、カンムリカイツブリ、カワウ、ダイサギ、コサギ、アオサギ、コブハクチョウ、マガモ、カルガモ、コガモ、ヨシガモ、オカヨシガモ、ヒドリガモ、オナガガモ、ハシビロガモ、ホシハジロ、キンクロハジロ、スズガモ

ホオジロガモ、ミコアイサ、カワアイサ、ミサゴ、トビ、オオバン、タゲリ、ユリカモメ、セグロカモメ、キジバト、ハクセキレイ、ビンズイ、タヒバリ、ヒヨドリ、モズ、ジョウビタキ、アカハラ、シロハラ、ツグミ、エナガ、シジュウカラ、メジロ、ホオジロ、カシラダカ、アオジ、オオジュリン、カワラヒワ、シメ、スズメ、ムクドリ、ハシブトガラス 計51種

<参加者> 田丸喜昭、田丸メリールイス、西巻実、中野久夫、諏訪哲夫、金成典知、猪爪敏夫、首藤佑吉、首藤恵美子、田中功、間野吉幸、北原建郎、桑森亮、野口幸子、小林寿美子、中西榮子、大久保陸夫、小玉文夫、山本貞江、小島昭江、小林秀美、清岡万紀子、飯島博
参加者23名

新年探鳥会2005 ルート2

クロツラヘラサギのショーに感激

中西榮子

1月3日恒例の新春探鳥会に参加させていただいた。探鳥地として名高い波崎を一度も訪れたことがなくどんな鳥に出会えるのか期待は大きかった。途中タゲリの飛翔を眺めながら最初のポイントに向かった。小見川の堤では、カワウの群れを見ることができた。いったいどれくらいの数になるのだろうか。次から次へとカワウの編隊が飛んで行く。しばし、伊豆沼で見た雁行を思い出し感慨深いものがあった。

第2のポイント神之池では、ミコアイサの群れ。距離はあるが、雌雄のミコアイサの姿をはっきり確認することができた。

次のポイントは待望の浪崎。かもめ公園で風を避けながら一列に並んでお弁当を広げる。風は強く体を支えるのがやっとだったが、南風で気温13とか。暖かいのが、何よりであった。ここでの圧巻は、なんとと言ってもクロツラヘラサギのショーである。お休みモードであった2羽のクロツラヘラサギが私たちのためにひとときのショーを展開してくれた。まず大きく伸びをし、次に黒く長い嘴をこちらに向けてくれた。2羽がゆっくり場所を入れ替える。それは、さ

ながら新作の衣装をまとったモデルがステージを歩いているかのようだ。お目当てのシノリガモは、その姿を見せてはくれなかったが十分満足できる鳥見となった。

その後、北浦にまわったが、オオホシハジロは現れず、数名の方がクロハラアジサシを見ることができたようだ。簡保の宿潮来でコーヒーを飲みながら鳥合わせをし、認めた鳥は51種となった。帰路の渋滞を除けば、すばらしい初鳥見の会であった。

幹事の島崎さん、長時間にわたり運転してくださった田丸さん、黒田さん、小玉さん、田中さん、参加された皆さん、本当にお世話になりました。

<認めた鳥> カイツブリ、ハジロカイツブリ、ミミカイツブリ、カンムリカイツブリ、カワウ、ウミウ、ヒメウ、ダイサギ、コサギ、アオサギ、クロツラヘラサギ、コブハクチョウ、オオハクチョウ、マガモ、カルガモ、コガモ、オカヨシガモ、ヒドリガモ、オナガガモ、ハシビロガモ、ホシハジロ、キンクロハジロ、スズガモ、ミコアイサ、トビ、ノスリ、チュウヒ、チョウゲンボウ、バン、オオバン、タゲリ、ユリカモメ、セグロカモメ、ウミネコ、クロハラアジサシ、キジバト、カワセミ、コゲラ、ハクセキレイ、ヒヨドリ、モズ、シロハラ、ツグミ、メジロ、アオジ、カワラヒワ、シメ、スズメ、ムクドリ、ハシボソガラス、ハシブトガラス 以上51種
<参加者> 田丸喜昭、田丸メリールイス、中西榮子、宮下三禮、黒田力、鈴木静治、玉井修一郎、村上稔、桑森亮、小玉文夫、小玉信子、猪爪敏夫、島崎純造、田中功、中野久夫、西巻実、金成典知 参加者17名

(1月2日開催予定のルート1井頭公園探鳥会は年末の大雪の為に中止しました)

市民手賀沼探鳥会

間野吉幸

2005年1月23日(日)9時~12時 曇 風弱
我孫子野鳥を守る会、我孫子市環境レンジャー、我孫子市と共催の一般市民を対象とした探鳥会で、6班に編成し当会の会員が探鳥指導を

行った。手賀沼遊歩道を中心に探鳥し計47種、その他外来種5種を観察した。一般市民の方で初めて見た鳥や、カワセミの美しい姿を見て歓声を上げており、寒い中での探鳥会であったが十分堪能された模様であった。参加者74名
 <認めた鳥> カイツブリ、ハジロカイツブリ、カンムリカイツブリ、カワウ、ダイサギ、コサギ、アオサギ、コブハクチョウ、マガモ、カルガモ、コガモ、オナガガモ、ホシハジロ、ミコアイサ、ミサゴ、チュウヒ、コジュケイ、キジ、バン、オオバン、タシギ、セグロカモメ、ユリカモメ、キジバト、カワセミ、コゲラ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、ピンズイ、タヒバリ、ヒヨドリ、モズ、ジョウビタキ、アカハラ、ツグミ、ウグイス、シジュウカラ、メジロ、ホオジロ、アオジ、オオジュリン、カワラヒワ、シメ、スズメ、ムクドリ、ハシボソガラス、ハシブトガラス 計47種

(外来種)アヒル、カナダガン、シナガチョウ、バリケン、カワラバト 計5種
 <お手伝い頂いた会員> 佐々木隆、島崎純造、田村和平、染谷迪夫、大久保陸夫、諏訪哲夫、猪爪敏夫、飯島博、金成典知、桑森亮、田中 斉、小池忠彦、小池共美子、米田崇明、間野吉幸

幹 事 会 報 告

日 時 1月9日(日) 13:15~16:00
 場 所 水の館 研修室
 議 題 第3四半期末会計報告
 17年度上期行事予定(下記)
 会報183号掲載予定

事務局

平成17年度上期行事予定

- | |
|---|
| 4/10(日) 手賀沼定例探鳥会
17年度定期総会(午後) |
| 4/24(日) 秋ヶ瀬公園(さいたま市)探鳥会 |
| 5/1(日) 筑波山探鳥会 |
| 5/8(日) パードウーカ手賀沼探鳥会 Enjoy手賀沼
幹事会(午後) |
| 6/4、5(土・日) 伊香保、榛名探鳥会(1泊) |
| 6/12(日) 手賀沼定例探鳥会 |

- | |
|-----------------------------|
| 6/26(日) 笹川、浮島探鳥会 |
| 7/10(日) 手賀沼定例探鳥会
幹事会(午後) |
| 7/17(日) 日光白根山探鳥会(日帰り) |
| 7/23(土) 映写会(午後)
納涼会(夕方) |
| 7/31(土) ホタルの夕べ |
| 8/14(日) 手賀沼定例探鳥会 |
| 8/28(日) アオバト探鳥会(大磯) |
| 9/11(日) 手賀沼定例探鳥会
幹事会(午後) |

お知らせ

<新会員紹介>

- 山住良子 (柏市北柏)
- 八木よし子 (柏市豊四季台)
- 小林隆成 (土浦市永国町)
- 六角昭男 (我孫子市泉)
- 堀口 勝 (我孫子市根戸)

投稿のお願い

会員の皆さんからの探鳥記、楽しい話題、スケッチ、写真等の投稿をお待ちしています。
 投稿先 小玉文夫
 〒270-1144 我孫子市東我孫子1-28-8
 Fax 04-7139-8260

鳥 だ よ り

- 10.14 [高野山] 柊¹ 採餌 笹川昭雄
- 10.14 [高野山] マチャヅナ¹ 採餌 (ピラカンサス) 笹川昭雄
- 10.14 [高野山] コイカ² 採餌 笹川昭雄
- 10.29 [高野山] オオカ¹ 飛翔(2羽のカラスにモビングされつつ) 笹川昭雄

- 11.17 [高野山] カウ(1)頻りと鳴く 笹川昭雄
 11.21 [利根川ゆうゆう公園] ノリ(1)杭上で物色 諏訪哲夫
 11.21 [利根川ゆうゆう公園] ミコ(1)重機上で物色 諏訪哲夫
 11.21 [花野井土手] ノリ(6)物色飛翔 向井章雄・治子
 11.21 [花野井土手] フウ(2)物色飛翔 向井章雄・治子
 11.22 [手賀の丘公園] オカ(1)上空を飛翔 首藤佑吉・恵美子
 11.23 [片山新田] オカ(1)飛翔 桑森 亮
 11.23 [五本松公園] ヤガラ(4)採餌 桑森 亮
 11.28 [手賀沼下沼] フウ(1)飛翔 桑森 亮
 12.04 [大井新田] フウ(1)電柱に止る 志賀鉦雄
 12.04 [下沼] フウ(1)飛翔 志賀鉦雄
 12.04 [手賀沼下沼] ミコ(1)魚を採餌 飯泉 仁・久美子
 12.05 [比新田] ノリ(2)杭上樹上 桑森 亮
 12.05 [比新田] フウ(2)草地飛立飛翔 桑森 亮
 12.05 [中峠] フウ(2)畑地飛立飛翔 桑森 亮
 12.05 [花野井土手] ノリ(3)物色飛翔 向井章雄・治子
 12.05 [花野井土手] フウ(1)物色飛翔 向井章雄・治子
 12.10 [片山新田] フウ(1)物色飛翔 大久保陸夫
 12.11 [手賀沼下沼] ミコ(1)採餌 桑森 亮、猪爪敏夫、大久保陸夫
 12.13 [箕輪新田] フウ(1)下沼 飯泉 仁・久美子
 12.14 [片山新田] ハブ(1)物色飛翔 大久保陸夫
 12.14 [比新田] ノリ(1)物色飛翔後畦にとまる 西巻 実
 12.15 [比新田] フウ(2)電線で餌物色 田中 功
 12.16 [高野山新田] フウ(1)カスに追はれる 首藤佑吉
 12.17 [中里新田] フウ(1)飛翔 大久保陸夫
 12.18 [泉] ハブ(1)物色飛翔 染谷迪夫
 12.24 [大井] トツ(1)林に 志賀鉦雄
 12.24 [比新田] ハブ(2)電柱上 中野久夫、金成典知
 12.25 [岡発戸谷津] ミマコジ(2)地上で採餌 首藤美恵子
 12.25 [岡発戸谷津] ヤガラ(2)樹間を移動 首藤恵美子
 12.25 [上沼] フウ(2)飛翔 志賀鉦雄
 12.25 [比新田] コノリ(1)落とし堀で採餌、捉えたウガ(1)飲み込めず 中野久夫、金成典知
 12.25 [比新田] フウ(1)飛翔 中野久夫
 12.25 [比新田] ハイフウ(2) 1・1飛翔 中野久夫
 12.26 [比新田] ノリ(1)飛翔 志賀鉦雄
 12.26 [比新田] ハイフウ(1)飛翔 志賀鉦雄
 12.26 [比新田] フウ(1)飛翔 志賀鉦雄
 12.26 [比新田] コノリ(1)落とし堀で採餌 中野久夫、金成典知
 12.26 [日の出] フウ(3) 飯泉 仁・久美子
 12.26 [比新田] コノリ(1)若鳥：11:40~ 12:20 水田で休息 飯泉 仁・久美子
 12.27 [大井] フウ(1)飛翔 志賀鉦雄
 12.27 [片山新田] ミマコジ(1)葦に止まる 首藤佑吉、大久保陸夫、田中 功
 12.27 [比新田] コノリ(1)落とし堀で採餌 中野久夫
 12.28 [岡発戸新田] ミマコジ(1)葦に止まる 首藤佑吉
 12.28 [比新田] コノリ(1)田んぼで蹲って休息 中野久夫
 12.29 [比新田] コノリ(1)落とし堀で採餌 中野久夫
 12.31 [比新田] コノリ(1)落とし堀で採餌 中野久夫
 12.31 [比新田] ノリ(2)河川敷の柳上 中野久夫
 01.01 [下沼] ミコ(1)杭上 志賀鉦雄
 01.01 [都部新田] オカ(1)飛翔、電柱に止まる 志賀鉦雄
 01.01 [比新田] コノリ(1)4号排水路で休息 中野久夫
 01.02 [布施] コノリ(1)ねぐらの溜田から飛立ち 中野久夫、金成典知

- 01.02 [弁天下] ミミズク(1)畑上を物色飛翔 飯泉 仁・久美子
中野久夫、金成典知
- 01.03 [上沼] ミコ(1)物色飛翔 志賀鉄雄
- 01.03 [布施] コノリ(1)ねぐらの溜田から飛立ち 中野久夫
- 01.04 [大井] ミサギ(1)隣家との生垣に 志賀鉄雄
- 01.04 [大津川沿い] ハニシコ(2)鳴きながら移動 志賀鉄雄
- 01.04 [比新田] コノリ(1)4号排水路で休息 中野久夫
- 01.04 [比新田] ノリ(2)玉原の柳上 中野久夫、金成典知
- 01.04 [比新田] フウ(1)物色飛翔 中野久夫、金成典知
- 01.05 [大津川] ハニシコ(1)葦に 志賀鉄雄
- 01.05 [手賀の丘公園] トウガミ(1)芝生 志賀鉄雄
- 01.05 [手賀の丘公園] ヤガラ(1)樹上 志賀鉄雄
- 01.05 [比新田] コノリ(1)2号排水路でウガム捕食 中野久夫
- 01.05 [中峠] フウ(3)物色飛翔 松田幸保
- 01.06 [岡発戸新田] フウ(1)物色飛翔 大久保陸夫
- 01.06 [比新田] コノリ(1)ねぐらの4号排水路から飛立ち 中野久夫、金成典知
- 01.07 [大津川] ハニシコ(1)葦に 志賀鉄雄
- 01.07 [弁天下] コノリ(1)3号排水路で捉えたウガム飲み込めず 中野久夫
- 01.08 [岡発戸市民の森] ヤガラ(1)樹間移動 桑森 亮
- 01.09 [郡部隣新田谷津] オカ(1)カスに攻撃されながら空を飛ぶ 首藤美恵子
- 01.09 [比新田] ハブサ(1)電柱上 中野久夫
- 01.09 [岡発戸新田先手賀沼] セイカギ(1)下沼 飯泉 仁・久美子
- 01.09 [手賀沼] オカ(4)下沼 飯泉 仁・久美子
- 01.09 [手賀沼] ミコ(2)上1下1 飯泉 仁・久美子
- 01.09 [箕輪] フウ(1)上沼 飯泉 仁・久美子
- 01.09 [箕輪] ノリ(1)下沼
- 01.10 [手賀の丘公園] ヤガラ(1)樹間移動 桑森 亮
- 01.10 [大井] フウ(1)電柱に止まる 志賀鉄雄
- 01.10 [上沼] ミコ(1)水浴び(干潟付近) 志賀鉄雄
- 01.10 [下沼] オカ(8)採餌 志賀鉄雄
- 01.10 [下沼] オカ(1)飛翔 志賀鉄雄
- 01.10 [比新田] コノリ(1)午後6時半に4号排水路で睡眠確認 中野久夫
- 01.11 [上沼] フウ(1)飛翔 志賀鉄雄
- 01.11 [下沼] ミコ(1)杭上 志賀鉄雄
- 01.11 [手賀川] オカ(4) 志賀鉄雄
- 01.11 [比新田] コノリ(1)4号排水路で休息 中野久夫
- 01.12 [比新田] コノリ(1)落とし堀で採餌 中野久夫、金成典知
- 01.13 [比新田] コノリ(1)朝2号排水路を飛立ち取手側へ 中野久夫
- 01.13 [比新田] オカ(1)河川敷柳上 中野久夫
- 01.14 [手賀川] オカ(4)葦際で休息 志賀鉄雄
- 01.14 [手賀新田] フウ(1) 志賀鉄雄
- 01.14 [弁天下] コノリ(1)朝3号排水路を飛立ち行方不明 中野久夫
- 01.15 [弁天下] コノリ(1)朝3号排水路を飛落ち落とし堀へ 中野久夫
- 01.17 [上沼] ミコ(1)干潟上 志賀鉄雄
- 01.17 [下沼] フウ(1)飛翔 志賀鉄雄
- 01.17 [手賀川] オカ(4)水面上、休息 志賀鉄雄
- 01.17 [比新田] ノリ(2)鳴合いあいながら飛翔 中野久夫、金成典知
- 01.18 [大津川] ハニシコ(1)鳴きながら移動 志賀鉄雄
- 01.18 [上沼] フウ(1)飛翔 志賀鉄雄
- 01.18 [手賀川] オカ(4)葦陰で休息 志賀鉄雄
- 01.18 [比新田] ハブサ(1)ギバトを追う 中野久夫、金成典知
- 01.19 [布瀬新田] ノリ(1)電柱上 志賀鉄雄
- 01.19 [比新田] コノリ(1)田んぼで休息 中野久夫、金成典知

01.20 [北新田] 功ノ川(1)落し堀で採餌
中野久夫、金成典知

01.21 [利根川(古戸地先)] 材ノ坪(4)風避け休憩
諏訪哲夫

01.21 [北新田] ノリ(1)田から飛び立つ
西巻 実

01.21 [布施] 材ノ(1)鳥を抑える 西巻 実

首藤佑吉・恵美子 1
首藤佑吉、大久保陸夫 1
諏訪哲夫 5
染谷迪夫 1
田中 功 8
田中 功、大久保陸夫 3
中野久夫 28
中野久夫、金成典知 18
中森純也 1
西巻 実 6
松田幸保 7
向井章雄 7
向井章雄・治子 10
総 計 464

今回の観察者の総投稿件数

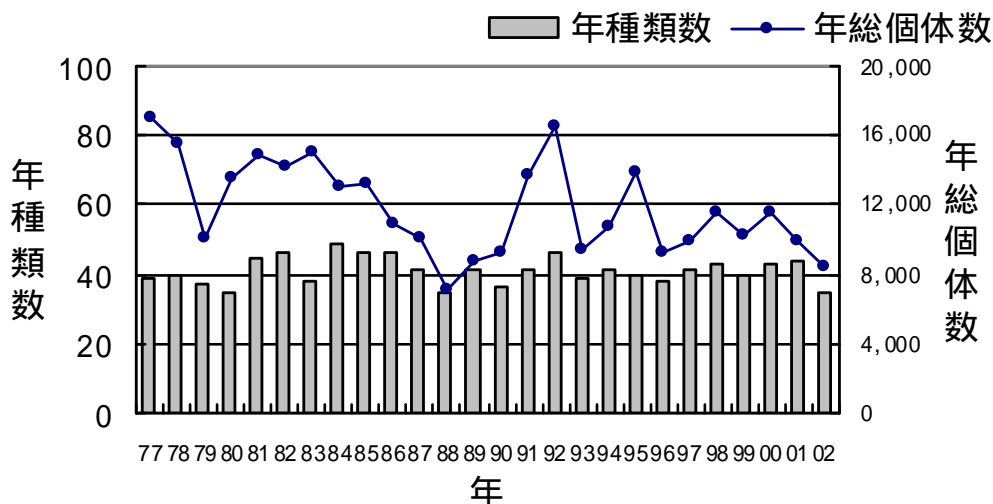
飯泉 仁 11
飯泉久美子 2
飯泉 仁・久美子 143
大久保陸夫 21
桑森 亮 48
桑森 亮、猪爪敏夫、
大久保陸夫 10
笹川昭雄 13
志賀鉄雄 87
首藤佑吉 5
首藤恵美子 34

紙面の都合上、皆様から寄せられた鳥だより
の一部を掲載させていただきました。なお、ご
報告いただいた鳥だよりは全てをデータベース
として収録させていただきました。

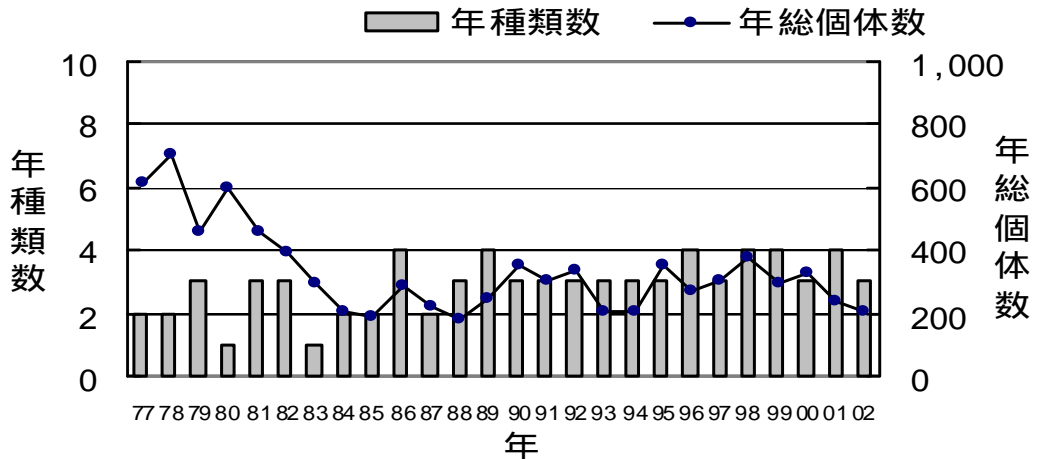
手 賀 沼 の 水 鳥

(手賀沼の鳥 より)

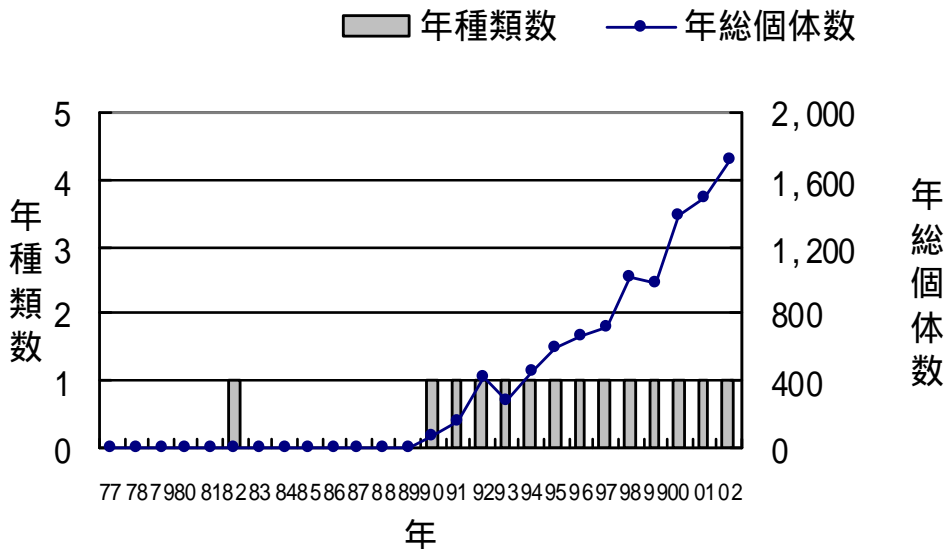
水鳥の年総個体数の推移



カイツブリ科の 年種類数と年総個体数の推移



ウ科の年種類数と年総個体数の推移



我孫子野鳥を守る会会報 No183(2005年 3～4月号)

発行 2005年3月1日
 発行人 木村稔 我孫子野鳥を守る会 会長
 編集人 小玉文夫 佐々木隆
 事務局 島崎純造 〒270-1121 我孫子市中峠3759-5 Tel04-7187-2222
 振替 00140-2-647587 我孫子野鳥を守る会
 会費 年会費 2,000円(大学生、高校生 1,000円 中学生以下 500円 家族会員 無料)